

ひまわり



令和4年5月30日(月)

ロバート・フルガムに学ぶ



先日、幼稚園の先生から、幼児教育の話を聞きました。幼児教育は、遊びをとおして学びの基礎を培う教育などのこと。また、遊びで大切なことは、さまざまな直接体験をすることだそうです。その中で、幼稚園や保育所に通う子どもたちは、社会性、道徳心、集中力など、その後の小学校以降の学びの基礎となる力をつけていくのです。

ロバート・フルガム(1937-)というアメリカ人の哲学者・エッセイストがいます。彼の代表作に“*All Really Need to Know, I Learned in Kindergarten*”があります。邦題は『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』というものです。その中の一節を紹介します。

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。<中略>

わたしはそこで何を学んだろうか。

何でもみんなで分け合うこと。

するをしないこと。人をぶたないこと。

使ったものはかならずもとのところに戻すこと。

ちらかしたら自分で後片付けをすること。

人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。

<中略>

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。

幼稚園や保育所、その後の小学校、そして中学校で学んでいること、これらは当たり前のことばかり。多くの人は、これから10年以内に社会人となります。3年生であれば、4年後には社会に出ている人もいるかもしれません。よりよい社会をつくる一員となるため、これまで学んできた「当たり前のこと」＝「正しい物の見方・考え方・行動」を、当たり前に実践してほしいものです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

